

EVENT 114 MARKETING

発行所：株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABCビル 4F-A
TEL03-6721-5303 sofufu@event-marketing.co.jp

特集 未来を創る展示会、2025年の進化へ
挑戦する主催者たち



特別企画
「AP イノゲート大阪」内覧会
「MICE」「アート」「サステナ」
キーワードにコラボ

TAKE FREE www.event-marketing.co.jp

夢の入り口でありますように



樋口 今年も終わりますね～。怒涛の2024年でした。

田中 今年は暑いねーって言うてるうちにう年末になっちゃった感じですね。

樋口 たしかに。BACKSTAGEの最終回と渋谷金王八幡宮の例大祭・未来緑日の初開催で、終わりもあれば、始まりもあるというアツい夏でしたね。

田中 そうそう、夏からラッシュだったので、新年から前半の記憶が全然ない。

樋口 印象に残っている取材先は5ページに少し書いてますけど、スマホ AIがサマってくれた2024年写真は…猫!?だけじゃなくて、ヘッドマウントディスプレイつけている姿も結構ある。超リアルですね。あとは学生ツアーや大学での取材も増えました。

田中 第一人者だけでなく、これからの人にもフォーカスをあてています。次世代につなぐ、レガシーを遺すのもイベントの役割という意識が強くなりました。

樋口 学びと交流のイベマケとして、ご登場いただく方々の平均年齢もリフレッシュして。今年は高校生の方の取材もあって新鮮でした。こちらは大阪取材でしたが、来年は万

博で大阪入りも増えそうですね

田中 1970年の大阪万博で日本のイベント業界、ディスプレイ産業が確立。

産業の成長だけでなく、イベントってワクワク感とか、未来とか、楽しいキーワードと結びつきますよね。2025年もハッピーにいきましょう。

(編集部・樋口陽子/田中力)

リアルもオンラインも ビジネスイベントを もっと簡単に

イベント主催者の悩みをすぐに解決できる
イベントマーケティングプラットフォーム

お問い合わせはこちら



充実した機能

オンライン決済 / 領収書データ発行 (インボイス制度対応)
QRコードチェックイン / 来場者・視聴者トラッキング
ビジネスマッチング / タイムテーブル / 抽選 (事前審査)
プロモーションコード / 来場通知メール and more…

BtoB イベント実績多数

ビジネスカンファレンス / セミナー・ウェビナー / 展示会
プライベートショー / 自治体主催イベント
ユーザーコミュニティ / マーケティングイベント / ミートアップ
リアル・オンライン・ハイブリッドイベント

E イベントレジスト株式会社
<https://eventregist.com>



挑戦する主催者たち



芳賀 信享さん
株式会社ビジネスガイド社
代表取締役



古市 優子さん
Comexposium Japan株式会社
代表取締役社長



武田 学さん
ブティックス株式会社
常務取締役

—2024年を振り返って

コロナ禍が完全に明け、全体的には好調でした。ただ、他の業界と同様に、物価や人件費などの高騰は見本市の運営に影響を与えています。

新たな施策としましては、韓国市場で日本製品の人気が高まっている中、韓国での見本市「第1回東京国際ナショナル・ギフト・ショーinソウル」を初開催しました。非常に好評で、今後、回数を重ねるごとに規模を拡大していきます。

—2025年の展望

東京国際ナショナル・ギフト・ショーが9月に記念すべき第100回を迎えます。53年、100回にわたり消費財の流通と贈り物の文化の発展に貢献しています。第100回のテーマは「平和と愛の贈り物」です。出展社様、来場者様により一層満足していただける見本市を展開していきます。

6月には福岡市のマリンメッセ福岡にて「福岡ギフト・ショー2025／福岡プレミアム・インセンティブショー」を開催します。福岡でのギフト・ショー開催は6年ぶりとなりますが、九州地区の企業の国際化と地域経済の発展に貢献していきます。

—人材育成・働き方改革について

特に若手社員の営業力の強化が課題として挙げられます。当社の事業について体系的にまとめた社長直筆の「虎の巻」を社員に共有しています。また、プレゼンテーションに関する外部研修を検討しています。

<<主な開催展示会>>

東京国際ナショナル・ギフト・ショー、LIFE×DESIGN、LIVING&DESIGN、グルメショー、京都国際ナショナル・ギフト・ショー、大阪国際ナショナル・ギフト・ショー、国際ナショナル プレミアム・インセンティブショー、福岡ギフト・ショー／福岡プレミアム・インセンティブショー、東京国際ナショナル・ギフト・ショーinソウル、中国華東輸出入商品交易会（日本館）、中国輸出入商品交易会（日本館）、台湾文博会（日本館）

—2024年を振り返って

2023年もパンデミック明けで盛り上がりを見せましたが、2024年は海外勢も本格的に戻ってきて、過去にない勢いを感じました。

また個人的には、数年前から提唱していたイベントにおけるDE&Iが大きく進んだように思います。特に、極端にバランスが偏った登壇者一覧（男性しかいない等）が減ったことはとても嬉しく思います

—2025年の展望

最新テクノロジーを常に試し続けることは常に重要視しています。加えて、日本の魅力を最大限活用しつつ、テクノロジーとの掛け算で、リアルでしか体験できないよりプレミアムな付加価値を提供し続けたいです。

—人材育成・働き方改革について

引き続き、関係者全員が働きやすい組織を目指します。いままでは主にデジタル化を軸として、例えばイベント廃棄物を減らしたり再利用することに注力していましたが、今後はさらにテクノロジーを活用し、社員のみならず、現場スタッフの時間外労働を減らすような取り組みにも積極的に挑戦していきたいです。

<<主な開催展示会>>

NRF APAC:6月3日～5日
ad:tech tokyo:10月22日～24日

—2024年を振り返って

2023年に続き、当社主催の介護業界 日本最大級の展示会『CareTEX（読み：ケアテックス）』および、業務効率化・売上アップ・DX推進のための展示会『DXPO（読み：ディーエクスポ）』は、出展社数、来場者数、開催回数・規模ともに、順調に拡大しています。また、年間を通じてマッチング機会を提供する『オンライン展示会』も継続して成長中です。

—2025年の展望

CareTEXは現在、東京・大阪・福岡・名古屋・仙台・札幌・横浜で開催していますが、25年度は更に地方開催を増やすことを検討しています。また、DXPOは東京・大阪・福岡での開催に加え、6月に新たに名古屋での開催が決定していると共に、全く新しい取組みを企画（近日リリース予定）です。

—人材育成・働き方改革について

当社では、「属人化」しやすい展示会の全ての業務を「マニュアル化」し、体系化された研修を実施することにより、新卒・中途入社問わず、早期に活躍・成長できる環境を整えています。そのことで業務が効率化され、長時間労働の抑制に繋がります。また、定量的なKPI設定および明文化された評価制度により、個々の力を引き出します。

<<主な開催展示会>>

CareTEX（全国で年8回開催）
バックオフィスDXPO（全国で年4回開催）
営業・マーケDXPO（全国で年4回開催） ほか

71 電力
処理能力 需要

100%

2025年も展示会産業は盛り上がりそうだね。

“お陰様で71周年”

引き続き展示会やイベントの電力設計と施工で、成功に貢献します。

株式会社 鈴木電機
〒111-0033 東京都台東区花川戸 2-12-5
TEL 03(3842)8201 (代) FAX03(3845)3040
URL: https://www.suzukidenki.co.jp

Expo&Convention Organizer System

出展者との書類のやり取りが大変？

ECOS で簡単に解決！

来場者・出展者・セミナーをシステムでまとめて管理！
「展示会」「就職セミナー」「お祭り」など
多数イベントにご導入いただいております。

公式サイトをチェック

株式会社イベントラボ 神奈川県横浜市中央区桜木町1-1-8 日石横浜ビル15F 045-263-9177

YouTubeチャンネル

はじめました

イベントマーケティング

073KOBE ONLINE

WEEKLY EVENT MARKETING

May 20

挑戦する主催者たち



佐々木 剛 さん

TSO International株式会社
代表取締役社長

—2024年を振り返って

新規展示会も立上げ、大阪にも再進出を行い、順調な1年であったと同時に、非常に2025年から2026年の会場調整などを苦勞しました。ビジネスとしては2割以上の成長があり、今後も引き続き伸びていくと想定しています。

—2025年の展望

2025年は資材費や外注人件費、社員給与の増加など様々なコストアップの要因が積み重なるので、新しい取り組みを行うより既存事業のボトムアップに戦力を割く1年になるでしょう。2025年は展示会の本質を再追及していく1年にしていきます。

—人材育成・働き方改革について

人材育成と人材採用にはまだまだ大きな課題があります。展示会のスペシャリストとして成長できる教育マニュアルと、若手が希望をもって業界に入ってきてくれる発信の仕方の工夫が必要です。

働き方改革は2019年から行っており、テレワーク、時短勤務、子育て支援など、柔軟な制度は構築できつつあると思います。

<<主な開催展示会>>

SPORTEC、CAFERES JAPAN、レジャー&アウトドア
ジャパンWELLNESS Tokyo、国際発酵・醸造食品産業展、ほか



長谷川 裕久 さん

株式会社JTBコミュニケーションデザイン
事業共創部 トレードショー事務局 局長

—2024年を振り返って

明らかにリアルな展示会への期待が高まっているなど感じています。パンデミックを得て、デジタルサービスが進化する中でも普通に会って商談ができるという普遍的なベースが大切にされ、コロナ以前より大きく成長した展示会もあり、コロナ以前に戻った展示会が多くなっています。

—2025年の展望

1点目は、6月に東京ビッグサイトで、SEMISOL 2025～半導体後工程技術&ソリューション展～を新たに実施いたします。半導体産業の進化を支える後工程の高付加価値化に焦点をあて、未来の社会を支える半導体産業の支援をできればと考えております。

2点目は、7月に秋葉原のUDX SQUARE で、まちづくりデザインWEEKと称し、①GXDX CITY、②健康まちづくり、③地域交通MaaSという3部構成の展示会を開催いたします。まちづくりの課題解決を産官学による共に考える場として、また商談の場として実施いたします。

—人材育成・働き方改革について

如何にAIと共に成長をしていくかが重要だと考えています。ただ、その前に、「思い」を大切にしていきたいです。それは、お客様への思い、製品サービスへの思い、仲間への思い等いろいろあります。その「思い」を大切にしながら、人材の流動化や、現代社会の課題に対して、AI技術を確認しながら、Well Being な状況をつくりあげ、AIと共に生きる働き方をつくりあげて行きたいと思っています。

<<主な開催展示会>>

当社ホームページをご参照下さい。JTBコミュニケーションデザイン 展示会で検索！
<https://www.jtbcom.co.jp/service/tradeshowsponsored/?id=anchor-01>



甲斐 義憲 さん

日刊工業新聞社
総合事業本部 イベント事業部長

—2024年を振り返って

個別の展示会で凹凸はありますが、総じて前回対比で開催規模が拡大しており、この結果を受けて、企業や自治体からの相談も増加傾向にあります。

—2025年の展望

現在、多くの業界で人手不足が深刻な状況にあります。このため、業界団体や出展者から、学生の来場を望む声が多く聞かれるようになりました。これを受けて大学生はもちろん、高等専門学校や工業高校などを対象としたバスツアーや、学生向けステージプログラムなどを各展示会で企画しています。

—人材育成・働き方改革について

弊社の展示会事業は東京を除いて、これまで各支社の管轄下でしたが、2024年度から総合事業本部が一元管理する体制に移行しました。現在はシステムの統一化などを進めています。本部制移行に伴って、従来、縦割りだった営業や広報、運営といった面での連携が円滑になったと感じています。

<<主な開催展示会>>

中部地区での新エネルギーの導入、利活用で焦点を当てた「AXIA EXPO」、九州最大級の産業見本市「モノづくりフェア」のほか、大阪・関西万博と連携して開催する「未来モノづくり国際EXPO」、プレス・板金・フォーミング加工技術の専門展示会「MF-TOKYO」、世界最大級のロボット関連展示会である「国際ロボット展」など、国内だけでなく海外からも注目される展示会を開催いたしますので、ご期待ください。

JSSはあらゆるシーンをまもります
JSSは警備のプロフェッショナルです

施設警備
航空保安警備
イベント警備
身辺警備
交通誘導
保安警備

<https://www.j-ss.jp/>
東京 神奈川 千葉 大阪 宮城

Deeply Immersive Experience

最近、よく耳にするようになった「イマーシブ空間」は、イベントやエンターテインメント空間はもちろん、店舗やオフィス、教室など、多くのシーンで、高い体験価値を提供することができます。私たちはそのイマーシブ空間を様々な課題解決に活用できると考え、イマーシブ空間の創造をゴールとするのではなく、お客様のゴールを達成するためのツールのひとつとしてご提案いたします。

SYMUNITY GROUP
SYMDIRECT TEPoS222 TRAINKA ARK VENTURES SymX Inc. PRESSTONE SWAGI Tasc Service

挑戦する主催者たち

挑戦する編集者たち



中川 治さん
株式会社エグジション
オーガナイザーズ
代表取締役社長

- 2024年を振り返って
大阪・横浜ともに過去最多の来場者数を更新しコロナ後の展示会の復活を実感いたしました。
- 2025年の展望
ロボットと親和性の高い宇宙に関する展示会も同時開催いたします。
- 人材育成・働き方改革について
テレワークを含め臨機応変な働き方を推進していきます。

<<主な開催展示会>>

ロボットワールド (4展総称)
サービスロボット展
産業用ロボット展
次世代モビリティ展
【新設】宇宙開発ビジネス展



田中力
月刊イベントマーケティング
副編集長

- 2024年を振り返って
毎号特集テーマを決めて、各分野で注目されているイベントや技術、新しい演出手法について取材しました。映像、空間、会場、人材、安全などの分野でテックの導入、環境配慮の施策が増えてきたと実感しました。また取材対象が若い方が増えてきて、頼もしい反面新しい技術のキャッチアップの必要性を痛感しています。
- 2025年の展望
大阪万博をどう切り口で取材しようかと考えています。一般紙とは違うイベント専門紙らしさをだしていきたいですね。国内・海外の視察取材のお話も増えてきました。

ぜひ、挑戦してみたいですが、それと同時にイベントの現場の部分を掘り下げて、その技術力やこだわりといった数字に表れない価値を顕かにしたいです。あとマーケティングの基礎から…キリがないです。

—人材育成・働き方改革について

イベント業界に多くの人に入って来て欲しい。そこで楽しく仕事をしてもらいたい。という気持ちが、加齢とともに増えています。12月23日に実施したイベント・MICE業界合同会社説明会はその最初のステップです。2025年は教育機関の方との連携を深めていきたいです。当社の働き方改革？ …善処します。

<<主な取材スケジュール>>

イベマケYouTubeで展開している展示会レポートも強化していきます。それ以外の企業系イベント、MICE、スポーツイベントなど、積極的に現場取材をしていきますので、ぜひお声かけください。



樋口 陽子
月刊イベントマーケティング
編集長

- 2024年を振り返って
今年「SusHi Tech Tokyo」「TOKYO LIGHTS」などの取材で感じた共通点は目的型、未来への投資、エンタメ路線など、世界に向けてどう尖り、旗を立てるか、短長期とターゲットを明確化して体験設計し、イベントに終わらずにエコシステムをつくる、グローバルなイベント設計です。背景には自治体・企業からもサステナブルマインドが求められ、イベントマーケティング業界への浸透を感じます。主催イベントとしては「BACKSTAGE FINAL」を8月に開催、全8回を終え体験型マーケティング切り口のカンファレンスによって、コミュニティ醸成の役割は果たせたと希望観測的に思っています。ここからアメー

バ的にどう分裂・結合して生まれ変わるのか。予兆イベントやお声かけもあり、第二形態への変化の途中です。

—2025年の展望

イベントマーケティングという場所が、紙面でも、どこでも「触りを教えて」「どう思う?」と、「ちょっとしたこと」を持ち合う「近くの寄り合い所」とか、メディアの軒先を貸して、酒屋さんのやる「角打ち」的存在になったらうれしいと毎日頃思っています。2025年は創刊10周年。角打ちでパーティでもしたいですねえ。

—人材育成・働き方改革について

業界全体では、人材確保や育成について、団体の連携した動きが進みつつあります。また、企業ごとにリスクリングの推進、リカレント教育によるキャリアアップの推奨など、学び直しの機会が進んでいます。実際に業界内での実施率などをヒアリングし、意識調査などをデータ化、ムーブメントを可視化できればと思っています。会>>

もうすぐ

おかげさまで 創刊 10 周年

愛されるイベマケから
業界のみなさんを愛するイベマケに

株式会社 MICE 研究所
月刊イベントマーケティング編集部
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABCビル 4F-A
Tel: 03-6721-5303 / Fax: 03-6721-5704
https://www.event-marketing.co.jp

本質を学び、場をととのえる

イベントオーガナイザー

養成講座

<https://eventorganizer.jp/>

コンセプト設計のコンサルタント
宮川麻衣子さん

チームビルディングのプロ
高嶋大介さん

イベントの専門家
前野伸幸さん

広報・マーケティングの実践者
日比谷尚武さん

特別企画

「APイノゲート大阪」内覧会 “MICE”アート“サステナ”キーワードにコラボ

2024年10月1日にオープンした「APイノゲート大阪」。再開発で変貌する大阪・梅田エリアを眼下にみる、大阪駅直上の東急グループの新しい貸し会議室だ。MICE施設も集まるエリアに誕生した「APイノゲート大阪」はどんなキーワードを武器に展開していくのだろうか。(web版にて詳細)

対談 大阪エリアブランディングと
大阪MICEの可能性



MICE



清水 拓志さん

田中 嘉一さん

株式会社 TC フォーラム
執行役員
コミュニケーションデザイン部 部長

公益財団法人大阪観光局
経営企画部長
MICE 政策統括官 兼万博・IR 推進統括官



「APイノゲート大阪」から梅田駅北側のうめきた公園などの眺めが望める(写真右上)。西日本最大のターミナル駅であるJR大阪駅の直上、新改札口の西口に直結している「イノゲート大阪」(写真左下)。内覧会でのセッション「大阪エリア MICE × CREATIVE KANSAI のいま」(写真右下)

APイノゲート大阪を運営するTCフォーラムの清水さんと、大阪観光局でMICE政策統括官を務める田中さんに、MICEを通じた街づくりについて語っていただいた。

——内覧会セッションでMICEの価値を再定義するお話をいただきました。お二人が考える価値とは

田中 日本でのMICEの捉えられ方は部分的です。例えば、MICEは人もの・金を集めるツールと言われます

が、特に金の面は参加者の消費金額だけがクローズアップされ、ともすればMICEはホテルなどの関連業界のみの利益にしかならないものともみられてきました。しかし、本来はMICE開催が契機となって生まれたビジネスなど、開催後の効果がはるかに大きな価値なのです。これは最近「MICEレガシー」と言われ、MICEの価値が再定義されています。大阪がコロナ後に発表したMICE戦略では、さらに明確

化して「MICEとは街づくりのエンジンである」と規定しました。これは国内初、世界でも先んじたことです。清水 イノゲート大阪という新しいビル内で施設運営するにあたって、会場単体の視点ではなく、これまであまり構築してこなかったエリアマネジメントの観点からMICE業界およびエリアとして、利益を上げなければと考えています。例えば、同ビルのシェアワークスペースに万博期間入居される機関

等は、ゲストを招くイベントではAPイノゲート大阪を提案頂く協力関係を結んだり、DMO大阪梅田に加入するなど、共創型のMICE実施を目指しています。

——梅田エリアの位置付けとは
田中 梅田は大阪を象徴する場所。最も人が集まる故に梅田が大阪全体のイメージだという影響を与えるほど、重要なエリアだと思っています。また、各施設単体で全ての魅力をつ

くれるものではなく、競合とも連携し、エリアとしての発信を行なっていくことが不可欠です。この重要性を御社も積極的に発信いただきたい。

清水 われわれは単なる会場提供ではなく、コミュニケーションを効果的にするための会場づくりやサービス提供という新たな価値「コミュニケーション創造」を目指しています。この対談はそういった意味でも、意識が変わるヒントが多くありました。



会場の顔となるエントランスは開放的。展示棚には大阪ゆかりのクリエイターの本やアイテムをキュレーションしている

JR大阪駅直上に誕生!「ミーティングスペースAPイノゲート大阪」 特徴的なクリエイティブラウンジと全12室のスペース



「APイノゲート大阪」内覧会の平面図と実施例



クリエイティブラウンジでのパーティシーン(夜)



クリエイティブラウンジのトークショーシーン(昼)



Room J+K (194㎡) とクリエイティブラウンジ (150㎡) を連結

JR大阪駅直上に誕生した「ミーティングスペースAPイノゲート大阪」は、特徴的なクリエイティブラウンジと全12室のスペースで構成される。内覧会では、全室一体利用をイメージし、2日間にわたって、セッションやパーティ、デジタルアート体験など、実際にさまざまなプログラムを用意し、ショーケースとして来場者に体験提供した。

《ミーティングスペースAPイノゲート大阪》
会場に関するお問い合わせ TEL:06-6454-2109

JR大阪駅の直上「新しい西口改札からダイレクトにつながる」
全12室の大小様々な会議室&イベント空間

詳しい情報はこちら



対談 場とクリエイティブするチカラ アート×学び 体験価値



アート



最上 直生さん 株式会社TCフォーラム マーケティングデザインチーム ブランディングディレクター
青木 昭夫さん DESIGNART INC. / Osaka Art & Design CEO 総合プロデューサー

「Osaka Art & Design 2024」の様子 (写真右上)。AP イノゲート大阪内覧会でのセッションで青木さんは「新しい出会いを通じてクリエイティブなつながりをつくるのが重要で、仲介するコネクターを活用した新しい出会いの促進が求められている」と伝えた (写真下2点)

内覧会を総合プロデュースし、新たなコミュニケーション創造の場を目指すTCフォーラムの最上さん。大阪アート&デザイン総合プロデューサーの青木昭夫さんと「場とクリエイティブするチカラ」をテーマに語っていただいた。
——青木さんには大阪エリア最大級のアート&デザインイベントの舞台裏を内覧会でお話いただきました。まさに場とクリエイティブするチカラのヒントがありました

青木 2023年にスタートした「Osaka Art & Design」は今年、43.9万人に来場いただき、来年も5月末からの開催に向け企画を始動しているところ。初回は阪急うめだ本店のある梅田エリアを中心に20箇所、2回目の今年は55箇所とギャラリーやショップの参加は拡大。梅田にとどまらず大阪全体の街イベントという指針を示すため、エリアを広げています。
最上 今回、JR大阪駅直上のAPイノゲート大阪のオープンにあたり、大

阪の街と人を繋げるハブになりたいという想いがありました。そして大阪エリアを盛り上げる皆様と一緒に「クリエイティブな空間でユニークな発想を」をテーマとした内覧会を企画しました。「Osaka Art & Design」もクリエイティブで大阪エリアを繋げる取り組みであり、まさに私たちが目指す場作りと同じ。だからこそ是非、場とクリエイティブするチカラのヒントをお聞きしたかったんです。
——新たなつながり、異業種の交流

を促進する仕組みとは
青木 よくアートは主観的なものに対してデザインは客観的で大勢に受け入れられるもの、と言われ相反する考えがあります。僕は両方を楽しめて、街巡りをしながら新しい気づきを得る、そして自分磨きができる、そんな場を「Osaka Art & Design」で実現したいと、場をつくりました。
点在する場をつなげるには、関わるアーティストやデザイナーで知らない人同士つながっていくことも大切で

す。コネクターという存在を介して輪を広げる、場づくりの仕掛けは常に考えています。
最上 APの会場でも日々沢山の人が集まり多種多様なイベントが行われています。一つの場所に集まる最大の価値は「新しい気づきを得られる豊富な情報量」。そこにはセレンディピティのような偶発的なものもあります。思わぬ出会いが縁となり、その後の未来にも繋がっていくのではないかと日々感じています。

イベントとサステナビリティ -「Learning by doing」共に学ぶサステナブルな未来-



APイノゲート大阪の内覧会1日目には、3本のセッションが展開された。
オープニングには「イベントとサステナビリティ-『Learning by doing』共に学ぶサステナブルな未来-」として、サステナブルイベント協議会が講演。施設や主催者、参加者が一体となって取り組むべきイベントづくりのヒントが共有された。
サステナブルイベント協議会は、業界全体のサステナビリティ促進・リテラシー向上を実現すべく、イベント・スペースを事業領域とする丹青社、電通ライブ、乃村工藝社、博報堂プロダクツ、ムラヤマの5社によって2023年に発足。「JAPAN MOBILITY SHOW 2023」への出展やイベント業界関係者向けの各種展示会での講演、そして海外ツアーによる最新事例の共有などを通じ、業界全体のサステナビリティ促進に貢献している。
セッションでは、「何をやる、どこでやる」「サステナブルでも楽しく」「日本は遅れているのか」「ストーリーの発信も大切」の4つのテーマで、海外のイベント事例や国内のSDGs達成度、企業の取り組みなど具体的な



APイノゲート大阪オープニング内覧会のセッションに登壇したサステナブルイベント協議会のメンバー。オンラインとオフラインのハイブリッド登壇で実施された

内容とともに展開された。
協議会の活動でも、セッションでも想いの根底には、イベントが廃棄を前提にしたビジネスモデルからサーキュラーエコノミーへと転換が求められていること、そして、企業の自社事業では環境配慮を進めている一方で、イベントは後回しにされるという矛盾を解消することが共有された。また、サステナブルイベントの実践には、具体的なアクションを起こすことが重要であり、例えば開催場所の選択の観点として再生可能エネルギーの利用や廃棄物管理などについても言及。同内覧会を

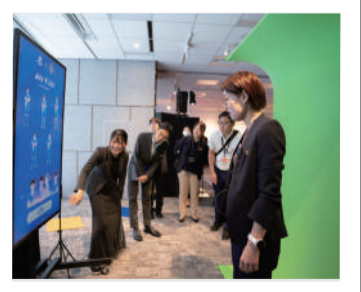
主催するAPイノゲート大阪の運営会社TCフォーラムの「CO2ゼロMICE®」や入居するイノゲート大阪自体の廃棄物管理の取り組みについても紹介された。
副題の『Learning by doing』は、協議会メンバーも視察で訪れたサーキュラーエコノミー先進国・オランダ人のマインド。やりながら、学んでいくということの意味しており、はじめられるところから、個人の興味からでも、まずは自分が楽しくはじめることが「サステナブルへの小さな一歩につながる」とメッセージを贈った。

吉本興業とコラボしたコンテンツ よしもと式研修・お笑いLIVEも実施提供



吉本興業とミーティングスペースAPで、研修とエンターテインメントをコラボさせた、「よしもと式研修」と「お笑いLIVE」を実施した。
企画は吉本興業の野田泰久さん(写真左)、同・新井祥弘さん(写真右)、TCフォーラム蛭田紀生さん(写真中央)。

DIGITAL ART 体験



DIGITAL ART 体験を提供
デジタルクリエイティブ集団SWAGがプロデュースしたインタラクティブDIGITAL ARTコンテンツをRoom H・I (190㎡)のスペースで展開した。

APイノゲート大阪のこだわり



マネージャーの橋本美奈子さん
「クリエイティブな空間でユニークな発想を」をコンセプトに、新しい会場の魅力やこだわりをチームに共有するAPイノゲート大阪マネージャーの橋本美奈子さん。

渋谷区共催のテック x アートイベント 第一弾発表

—DIG SHIBUYA 2025

SHIBUYA CREATIVE TECH 実行委員会は、渋谷区とともに、2025年2月8日から11日の4日間開催する「DIG SHIBUYA(ディグシブヤ)2025」のオフィシャルプログラム、およびオフィシャルパートナープログラムを発表。大平龍一氏のパブリックアート、バックマンの「宝探し」、坂本龍一氏トリビュート音楽フェスなどを実施する。



「DIG SHIBUYA 2025」イメージ

「SusHi Tech Tokyo 2025」 100 日前イベント

— 東京都

東京都は、「Tokyo Innovation Base」(TIB)を「NODE」(結節点)として国内外の様々なプレイヤーを結び付け、イノベーションを生み出す活動を進めている。

今回、2025年5月に開催する「SusHi Tech Tokyo 2025」(5月8・9日<ビジネスデイ>/10日<パブリックデイ>)を視野に、TIBの

グローバルな取組を世界に発信するイベント「TIB Global Day 2025 Winter」を1月30日に開催する。

開催100日前に「SusHi Tech Tokyo 2025」の最新情報を小池知事から発信するほか、国内外の様々なプレイヤーが英語でピッチやトークセッションを展開する(同時通訳あり)。



スプラシア社名変更 デジタルエクスペリエンス(株)へ

イベントDXを展開する株式会社スプラシアは、2025年1月1日より「デジタルエクスペリエンス株式会社」に社名を変更する。新社名は、デジタル技術を活用し、イベントDXを超えた幅広い体験価値を提供するという企業ビジョンを反映したものだ。社名変更に伴い、プランニングやク

リエイティブ、データ分析の体制強化とともに、プロダクトの進化も加速させる。

新ロゴは「人」を象徴するデザインを採用し、創造力と論理性を融合した価値提供への意志が込められている。デジタル技術を通じて、企業や顧客に新たな価値を創出していく。



若手向けセミナー開催 日本展示会協会

日本展示会協会(日展協)人材育成委員会は、11月28日「会員企業・団体若手社員向けセミナー」を開催。堀正人会長(株式会社イベント)と田中岳志副会長の対談では、意外なプロフィールや経験談など、軽妙なトークで展示会業界の魅力や意義などを語り合った。(写真)



表参道に新オフィス —GLOBAL PRODUCE

イベント企画・イベント制作会社の株式会社グローバルプロデュース(代表取締役:光畑真樹氏)は、11月5日、新オフィスに移転した。

12月6日には、新オフィスお披露目パーティを開催。約280名の関係者が参加した。ジャズバンドの生演奏やドローン映像オープニング、などが用意された。

▼新オフィス
東京都渋谷区神宮前5-52-2 青山オーバルビル13階

イベントレポート

JCMA 協力の MICE 基礎講座も実施 ～イベント・MICE 業界 合同会社説明会 2024 冬～



ブースで熱心に企業説明に耳を傾ける姿が見受けられた

「イベント・MICE 業界 合同会社説明会 2024 冬 -MICE 基礎講座・交流会併催-」が12月23日、AP新橋で開催された。主催は月刊イベントマーケティング。

今回で3回目の開催となる合同会社説明会には、8社のブース出展企業、10社のパネル出展企業が参加した。

- ・ブース出展参加企業 (8社)
- 株式会社テクニコ
- 株式会社あいわず
- 株式会社ホットスケープ
- 株式会社映像センター
- 株式会社グローバルプロデュース
- 株式会社プリプレス・センター
- 株式会社TCフォーラム
- 株式会社シアターワークショップ

2026年卒業見込みの学生を中心に、転職予定者など、約100名が参加。対面式ブースで熱心に企業説明を聴く姿や、出展企業の現場担当者同士が仕事の魅力や自身の業界への就職動機をカジュアルに伝える「お仕事を知る座談会」を聴講する姿が見受けられた。

また、今回はJCMA(一般社団法人日本コンベンション協会)が後援し、MICE 基礎講座「未来のイベントプランナーへ! MICE 業界入門」を実施。JCMA 理事で株式会社ホットスケープ代表取締役の前野伸幸さん、株式会社コングレの東京 MICE ビジネス事業部国際会議課 佐藤あずみさんが、MICE の重要性や運営の基本スキル、事例を交え、わかりやすく魅力を伝えた。



お仕事を知る座談会では、出展企業から現場担当者が登壇(写真左) MICE 基礎講座「未来のイベントプランナーへ! MICE 業界入門」を実施(写真右)

EVENT MARKETING

FREE PAPER

読者Profile

大手メーカー・メーカー

▶年間イベント件数:約20件
デジタルマーケティングとオフラインを組み合わせて販促とファンづくりに

製薬会社 ミーティングプランナー

▶年間イベント件数:100件超
業界のファーストムーバーとして異業種のトレンドを知り講演会に活かしたい

IT 企業向け マーケティングサポーター

▶年間イベント件数:約150件
イベントマーケティングに関わるテクノロジーやツールについて情報収集したい

特集
イベントマーケティングのトレンドを国内外の事例や動向から分析し、メーカー・イベントの皆さんと共有します。

国内・海外ニュース
ツールやテクノロジーの最新情報、開催直前概況・事後レポートなどを紹介します。

コラム
幅広い視野と独自の視点、経験をもつ著名人が執筆します。

インタビュー
リアルコミュニケーションを楽しくをテーマに話題の方々ほか、インバナー、イベントメーカー、主催者の声を収録。

調査・レポート
効果測定や開催状況の集計、効果最大化の手法など、face to faceを科学するレポートをお届けします。

毎月30日発行

定期送付申し込み
発行所:株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9
ABCビル 5F
TEL03-6721-5303
sofu@event-marketing.co.jp

